様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：１１１０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ１２８４９

研究課題名（和文）中世仏教資料における記家文字表記体系の解明

研究課題名（英文）Elucidation of the notation system of Kike characters in Middle Ages Buddhism documents.

研究代表者
渡辺　麻里子（WATANABE, Mariko）

弘前大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：３０４３１４３０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では，まず，記家および記家文字の定義について，中世・近世の天台文献上の使用例から再検討を行った。
　次に，天台宗を中心に中世近世の写本資料を調査収集し，くずし字を分析した。その結果，いわゆる天台の記家文字と称された文字は，漢字の草書体を基本とする点では，天台宗独自ではなく他宗でも共通していた。しかし，仏教用語では，より大きくくずしたり，典型的な草書体ではなく，仏書独特の略字を用いてくずす場合もあることなどを確認した。また，今後の研究の利便のために，手引書の試案を作成した。

研究成果の概要（英文）：In this research, I investigated the definition of the Kike and the Kike characters from the usage examples on the Tendai manuscript of the Middle Ages and Edo period.I also surveyed and collected manuscript of the medieval period, centered on Tendai sect, and analyzed the Chinese character in running.Kike characters is usually written in Chinese character in running.I confirmed when that characters is used to write a Buddhism term, the extent of cursive is increased. Furthermore, I clarified the facts that Kike characters is based on the cursive script and it is not only a special character of Tendai sect but it is used in across the all sects.Also,for the convenience of future research, I have prepared a draft of the handbook.

研究分野：日本文学（中世文学、仏教文学）

キーワード：談義書　談義所　天台　談義　記家文字　記家　叡山文庫

1.　研究開始当初の背景

中世文学研究において，寺院資料は多くの情報を与えてくれる貴重な資料である。寺院資料の情報によって，解明された事柄も多く，また，唱導や直談など，文学と仏教思想を往還する研究テーマは，長らく注目を集めている。

しかし，寺院関係資料・仏教関係資料は，多くが未翻刻の写本の状態にあり，研究上，使いにくい状況にあり続けている。寺院資料の写本群は，例えば天台宗関係寺院の場合，いわゆる「記家文字」と称される仏書特有のくずし字で記されているため，判読が難しい。そのため，基礎資料が翻刻刊行され，提供されるなどといった基礎整備が甚だしく遅れている。厖大に資料が遺されているにもかかわらず，研究の俎上に乗せられていない資料が数多くあるのが現状である。

例えば，研究上その重要性が注目されて刊行される場合でも，『法華経直談抄』は，古写本集成として，翻刻活字化がなされないままの影印版で刊行された。影印版での刊行は，一般に閲覧できない写本を簡便に手にすることができる点では意義があるが，本文自体のくずし字が難読であるために，研究において十分に活用されているとは言いがたいのが現状である。

日本古典文学研究は，写本を実見し，細かな文字の違いまでを研究する，研究の歴史がある。和歌や物語など伝統的文学作品の用字は，大きくくずされた文字であっても，解読技術にも伝統があるため，これまで多くの作品が翻刻・解読され，研究に活用されてきた。これは歴史学研究における古文書の活用にも同様のことが言える。

一方，仏書や寺院資料を同様に扱おうとする時，文学作品や古文書資料とは異なるくずし方をする字が用いられていて，判読・翻刻が困難であるために，多くの貴重な資料がすぐに使用できず，結果として埋もれたままになってしまっているのである。

そこで本研究は，長年，寺院資料を研究の対象としてきた立場から，寺院資料に用いられる文字の体系を解明し，判読の基礎基盤を形成する。まず，記家文字仏教関係資料を収集し，それらに用いられる用字を整理・分類する。そしてサンプルを分類し，分析した結果を「記家文字の手引き」としてまとめ，仏教関係資料の写本を利用したい研究者の利便を高め，研究基盤を整備することを目指す。

仏書のくずし字は，一般のくずし字（草書）の方法に加えて，独特の省略方法や独特のくずし方を行うものが多くあるため，仏教学の研究分野でも共通認識となっていないのが現状である。仏教資料を活用したい，仏教学・日本文学・歴史学など，様々な分野の研究に寄与すべく，その基礎資料となる手引きの作成が急務なのである。

2.　研究の目的

(1)　記家文字資料の調査収集

仏教関係資料は，和歌や物語など，日本文学で用いられるものとは異なる，特有のくずし字が用いられている。この仏教特有の用字の中でも，特に天台宗関係資料に使われる文字を，「記家文字」と通称してきた。この記家文字の表記体系を明らかにするために，記家文字で表記されている資料を収集し，分析する。天台宗関係資料の中でも，様々なくずし字があるので，くずし字のタイプの異なるものを選び，調査収集する。

また，天台宗関係資料の写本資料の他，比較対照するために，他宗派における写本も収集し，比較検討の準備をする。

(2)　記家文字資料の分析

収集した各種写本資料について，くずし字の分析を行う。天台宗関係の資料については，サンプルの文字を抽出し，典型的なくずし字（記家文字）と，応用的・例外的なくずし字とに分類し，体系化を試みる。

また天台宗関係資料と，天台宗以外の他宗の写本の文字とを比較し，天台宗特有のものであるのかどうか検証する。

(3)　記家文字の分類

分析した資料を，さらに文字のレベルに分解して分類する。「記家文字」とは，中世の天台宗の学僧が筆記に用いた仏書特有の用字とされるが，和歌や物語などの文学資料や歴史資料や文書に用いるくずし字と比較し，共通する点や異なる点について，検証する。

またくずし方の特異性には，くずし方の他に，略字や異体字，新造字などが含まれていたり，混用されている点が予想される。

文字のサンプルを検証し，分類を行い，表記体系を解明するために分析を行う。

(4)　記家文字の解説書・手引書の作成

記家文字の分析・分類の結果について，記家文字の解説書・手引書としてまとめ，刊行する。それにより，「記家文字」で記された厖大な仏教関係資料についての研究の利便性を高め，文学や歴史研究者など，隣接する分野の研究者が活用できる研究基盤を整える。

３．研究の方法

(1)　天台宗における中世近世写本資料の調査収集

仏書の文字解析のため，仏教書独特の文字表記（記家文字）において，代表的で典型的な文字を用いた資料を調査収集するために，天台宗を中心とした中世近世写本資料を収集する。

典型的なくずし字として，天台宗の寺院資料を中心に収集する。調査先は，叡山文庫を中心として，中世・近世の写本を収集する。対象資料は，経典の注釈書（談義書・論義書）に限らず，講式，表白，願文，儀軌，次第書など，仏教の分野を横断して収集するように努める。

同じ天台宗内の写本資料でも，典型的な記家文字から，それとは異なるくずし方をする文字もあるため，なるべく多種多様なくずし字を収集するようにする。

(2)　天台宗以外諸宗の中世近世写本資料の調査収集

天台宗資料と比較対照するために，天台宗以外の諸宗における写本資料を調査する。調査先の候補は，真言宗は高野山大学図書館および高野山光台院，日蓮宗は身延山久遠寺，浄土宗は檀王法林寺，禅宗は駒沢大学図書館などにおける調査収集を予定する。

(3)　くずし字の分類・分析

収集した資料をもとに，くずし字のサンプルを取り出して分類し，体系立てて整理する。おおよそ，①草書体，②略字，③異体字，④造字（仏教用語を表現するために作られた字）に区分できると予想している。さらに①の草書体については，詳しく分析する。

分析には写真データを用い，文字サンプルを切り出しながら具体的に分類を示すことができるようにする。また文字サンプルは後に記家文字の手引書を作る時に活用できるようにする。

(4)　公開と検証

研究期間内に，様々な場，特に，仏教学方面，仏教資料を扱う研究者の多く集まる学会で，仏教関係資料の解析方法や分析の成果や手引書の試案について発表する。それにより，情報提供を得たり，関係研究者からの批正を受けたりしつつ，本研究の成果について，修正を行う。

(5)　記家文字手引書の作成

本研究の成果をまとめ，記家文字の手引書を作成する。分析にそって画像データをサンプリングした見本帳を作成する。可能であれば，典型的な記家文字の他，応用的（変化系の）記家文字，天台宗外のくずし文字も参照できるようにする。それらを記家文字の手引書としてまとめ，刊行できるように準備する。また，将来的にＷＥＢ上での公開もできるように準備を進める。

４．研究成果

三年の研究期間において，記家文字の特徴を分析するための天台宗および他宗の中世・近世写本を対象とし，典型的なくずし字と思われる写本から，応用的なくずし字と思われる写本まで，様々に資料収集を行った上，文字を分類し，くずし方の分析を行うことができた。この結果は，様々な関係学会で公表し，現在，手引書の刊行に向けて準備を進めているところである。

年度ごとに述べていくと，第一年目の平成二十七年度は，天台宗における記家文字資料として典型的な例と思われる写本の調査および撮影を行った。まず，天台宗比叡山の寺院聖教を集めた叡山文庫にて調査を行い，主に華蔵院本および池田蔵本について，複写を行うなどして，写本資料の収集を行った。

予定していた調査書目を調査する過程で，記家文字文献の分析に必要な文献として，叡山文庫戒光院蔵『三大部見述目録』を見出した。この本を精査するために，さらに叡山文庫毘沙門堂蔵『三大部述聞見聞目録』や生源寺蔵『本書見聞述聞并巻数目録』の調査を進めた。本書についての分析結果とその成果は，平成二十七年度天台宗教学大会において口頭発表を行い，翌平成二十八年度に論文とし

て発表した。

さらに，他宗における文献調査として三年目に予定していた真言宗寺院の調査研究を，先行して実施した。調査先は高野山光台院で，各種の資料を調査した。高野山光台院の聖教は，高野山大学に全蔵寄託しておらず，重要な経典は，経蔵に保管されている。それら経蔵保管の聖教について，調査収集することができた。

続いて，第二年目の平成二十八年度である。この年は，応用的な記家文字文献の調査収集と分析を行った。応用的な記家文字資料としては，叡山文庫双厳院本・仏乗院本などを調査した。また他宗の資料として，引き続き高野山光台院本の調査を行った。そして，これらの収集した資料を整理し，分析を開始した。

また，記家文字を学ぶための手引書の準備も開始した。精度の高い写真を撮影するために，新たに整備したカメラで，最も典型的な記家文字写本と考えている檀王法林寺蔵『鷲林拾葉鈔』の撮影を実施した。この檀王法林寺蔵『鷲林拾葉鈔』をもとにして，記家文字の分類体系を分析し，テキスト化（手引書の製作）を行う。そのサンプルの切り出しや文字の整理を開始した。

そして，これまでの成果を二つの研究会で公表した。慶應大学にて開催された「室町～江戸期における写本と版本の関係についての総合的研究」という研究会において，「寺院資料調査の意義および記家文字資料調査の課題について」という題目で発表し，また同じく慶應大学で開催された「国際日本文化研究センター共同研究「投企する古典性―視覚／大衆／現代―」平成二十八年度・第三回共同研究会において，「寺院資料調査の意義と記家文字資料」という題目で発表した。席上，様々な分野で写本資料を調査研究している研究者から様々な指摘を受け，研究推進に向けて貴重な知見を得た。

また「談義所における聖教と談義書の形成」（『学芸と文芸』竹林舎）や，「廬山寺談『三大部見聞述聞』の享受に関する一考察」（『弘前大学人文社会科学部　人文社会科学論叢』創刊号）に論文を発表した。

第三年目，最終年度の平成二十九年度は，記家文字資料の調査を続け，文字の分析をすすめながら成果をまとめ，より多くの場で成果発表を行うことに努めた。

資料調査は，天台宗における記家文字資料の補足調査として，叡山文庫で実施した。さらに，比較検討できる関係資料の調査として，園城寺（滋賀・ 寺門派）における聖教調査を実施した。加えて，他宗の資料として，日蓮宗の身延山久遠寺身延文庫蔵本の調査を実施した。

また，調査分析に必要な資料収集のために，早稲田大学図書館における調査を実施し，関連情報の収集のために，大阪府立大学で実施された中世文学会春季大会や，薬師寺で行われた国際シンポジウム「南都学・北嶺学の世界」に参加し，講演を聴講した。

成果報告としては，国際学会で二件，国内学会で二件の発表を行った。具体的には，国際学会は，フランスのコレージュ・ド・ フランスで開催された「法宝義林・第二回国際シンポジウム」において，「天台の論義書および談義書について―『法華経』『三大部』の論義・談義を中心に―」という題で発表した。また，国際仏教大学院大学で開催された「2017 国際ワークショップ「写本一切経と刊本大蔵経」において，「経典注釈における筆写文字について ―中世日本の天台宗を中心に―」という題で発表した。前者は，天台宗以外の宗派の論義研究者が集まる会であったため，他宗の筆写文字についての意見を聞くことができ，多くの知見を得た。また，後者は，古写経の研究者が集まる会であったため，敦煌写本など，古代における筆写文字についての教示を得ることができ，いずれも本研究の推進に役立った。

国内学会では，大正大学で開催された「平成二十九年度・第五十九回天台宗教学大会」において，「記家と記家文字」という題で発表を行った。 天台宗の教学大会は「記家」の本場でもあって，様々な意見や教示を得た。また，身延山大学で開催された「第七十回・日蓮宗教学研究発表大会」においても「天台の談義所と身延の学僧」という題で発表し，成果を報告した。

記家文字の表記体系について分析した結果，研究当初に比べると，天台宗独自の用字と判断される例は減り，宗派を超えた共通のくずし方であるという面も判明した。しかしながら,語彙によっては，天台宗の独特のくずし方をする面も，改めて確認できた。また，くずし字の他，仏書独特の略字・異体字が混在するために，複雑化し，判読しにくくなる面があることが確かめられた。このように，天台宗の仏書独特のくずし方の特徴が明確になったことが本研究の成果である。

また，本課題は，くずし字の研究と並行して，「記家」および「記家文字」の定義について研究した。その結果，「記家」が多義語であることや，「記家文字」という語につい

て文献上の使用例が確認されず，近年の慣用であることが判明したことも成果である。

今回取り組めなかったこととしては，天台宗の用字と比較するために行う予定であった，他宗資料の調査について，真言宗と日蓮宗の資料は調査できたが，禅宗の資料には及ばなかった。また真言宗でも，内容の性質によってかなり文字が異なることが判明したが，さらなる分析まではできなかった。これらは今後の課題である。

また，本研究推進の過程で，仏書のくずし字の課題は，日本の中世・近世に限る問題ではない古い問題で，さらには日本を越えて，すでに敦煌文書の段階でも生じていることが判明した。今後は，中国における仏書写本のくずし字の様相についても視野に入れつつ，この課題に取り組んでいきたいと考えている。

予定していた手引書の刊行は，研究期間内に完成しなかった，なるべく早く刊行できるよう，現在，準備しているところである。

５．主な発表論文等

（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

① 渡辺麻里子「隣松寺蔵『久祥院殿写経』（仮名書き法華経）をめぐる一考察―付【翻刻】隣松寺蔵『久祥院殿写経』第一冊（序品第一・方便品第二）」，『弘前大学人文社会科学部　人文社会科学論叢』3，（右）1～35 頁，2017 年，査読無

② 渡辺麻里子「隣松寺蔵『久祥院殿写経』（仮名書き法華経）について―【翻刻】隣松寺蔵『久祥院殿写経』第二冊（譬喩品第三・信解本第四）―」『弘前大学国語国文学』38，2017 年，pp80-107，査読有

③ 渡辺麻里子「廬山寺談『三大部見聞述聞』の享受に関する一考察―付・〔翻刻〕叡山文庫戒光院蔵『三大部述聞見聞目録』―」『弘前大学人文社会科学部　人文社会科学論叢』創刊号，査読無，pp.459-482，2016 年

④ 渡辺麻里子「談義所における聖教と談義書の形成」『学芸と文芸』（生活と文化の歴史学９）査読無，pp 459～482，2016 年

⑤ 渡辺麻里子「唱導と説法」『説話文学研究』50，pp96-108，査読有，2015 年

⑥ 渡辺麻里子「尊舜談『天台伝南岳心要見聞』について」『大久保良峻教授還暦記念論集　天台・真言　諸宗論攷』2015 年，pp47-75，査読無

〔学会発表〕（計 7 件）

① 渡辺麻里子「経典注釈における筆写文字ににについて―中世日本の天台宗を中心に―」2017 国際ワークショップ「写本一切経と刊本大蔵経」（国際学会），2017 年

② 渡辺麻里子「記家と記家文字」平成二十九年度・第五十九回天台宗教学大会，2017 年

③ 渡辺麻里子「天台の談義所と身延の学僧」，第 70 回日蓮宗教学研究発表大会，2017 年

④ 渡辺麻里子「天台の論義書および談義書について―『法華経』『三大部』の論義・談義を中心に―」法宝義林・第 2 回国際シンポジウム（国際学会），2017 年

⑤ 渡辺麻里子「寺院資料調査の意義および記家文字資料調査の課題について」，「室町～江戸期における写本と版本の関係についての総合的研究」研究会，2016 年

⑥ 渡辺麻里子「寺院資料調査の意義と記家文字資料」国際日本文化研究センター共同研究「投企する古典性―視覚／大衆／現代―」平成二十八年度・第三回共同研究会，2016 年

⑦ 渡辺麻里子「叡山文庫蔵『三大部見述目録』について」平成二十七年度第五十七回天台宗教学大会，2015 年

６．研究組織

(1)研究代表者

渡辺　麻里子（WATANABE　Mariko）

弘前大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：30431430